

民法・商法

注 意 事 項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙は民法と商法で各1枚配付します。それぞれの科目の解答にあたっては、指定された科目の解答用紙を使用してください。
指定された科目の解答用紙に異なる科目を解答した場合は、試験時間内に申し出があった場合を除き、無効とします。
- III 解答にあたっては、黒のボールペン・黒インクのペンのいずれかを使用してください（ただし、インクがプラスチック消しゴムで消せないものに限りません）。それ以外で解答用紙に記入した場合は、無効とします。
- IV 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直してください。修正液・修正テープを使用してはいけません。
- V 設問が複数の場合は、解答用紙に設問番号を明記したうえで、解答してください。設問番号の記入がない場合は、無効とします。
- VI 試験時間は90分です。
- VII 民法の問題は1ページ、商法の問題は2ページにあります。

民 法

〔設例〕 の事案につき、問いに答えよ。

〔設例〕 A は、建物の新築を B に注文し、B は、これを請け負った。B は、C に仕事を下請けさせ、C は、B の指揮監督の下で、建物材料の大部分を提供して A の注文に係る建物建築の工程を終了した。その建物（「甲建物」）は、A が B に報酬全額を支払うのと引換えに B から A に引き渡され、甲建物につき、A の名で所有権保存登記がなされた。

問（１） C は、B から報酬の支払を得られず、A に対し、甲建物の所有権確認と所有権保存登記抹消登記手続を請求した。この請求の当否について述べよ。

問（２） C の B に対する報酬債権のために C に与えられる法定担保物権の活用を妨げる制度上・実際上の問題点について述べよ。

問（３） C に雇用される D が、甲建物の建築現場で、安全装置の着用を誤って足場から転落し、運び込まれた病院で死亡した。B に雇用される現場監督 E の指示によってセーフティネットに十分な強度と範囲が与えられていたならば、D は、死亡するまでには至らなかった可能性が高い。

この場合において、D の配偶者 F が B に対して D 死亡による損害の賠償を請求しようとするとき、その法的根拠を複数挙げたうえで、そのいずれが F にとって有利となるか、B の責任についての要件・効果上の観点ごとに述べよ。

問（４） （３）の場合において、F が受けるべき損害賠償額の全部を、B ではなく E が F に支払ったとする。このとき、E は B に対してどのような請求ができるか、説明せよ。

以 上

商 法

〔問題〕

甲株式会社（以下「甲会社」という。）は、コロナウィルスの影響もあって売り上げが大幅に落ち込んだ結果、最悪の場合、債務超過に陥る危険があった。このままでは赤字決算となり、取引銀行である B 銀行から融資の返済を迫られることをおそれた甲会社の代表取締役 A は、取引先数社と共謀して循環取引を行い、架空の売り上げを計上することによって、利益が生じているかのように装った計算書類を作成した。A は、監査役から計算書類等が適正である旨の監査報告を得た後、取締役会の承認を得て、1 株あたり 200 円の利益配当を行う旨の配当議案を、定時株主総会に提出した。

甲会社の定時株主総会では、会社提案通り、1 株あたり 200 円、総額で 200 万円の配当を行う旨が決議された。その後、甲会社は事業に行き詰まり、事実上の倒産状態にある。

以上の事実を前提に、下の小問に答えなさい。

[小問 1] 下線部の総会決議の効力を説明しなさい。

[小問 2] 甲会社が事実上倒産して融資金 1 億円の返済を受けられなくなった B 銀行は、A の取締役としての責任を追及しようと考えている。A の B 銀行に対する責任について論じなさい。

以 上